

# SUMIDA CORPORATION

## 2008年度第3四半期決算説明会

2008年10月29日

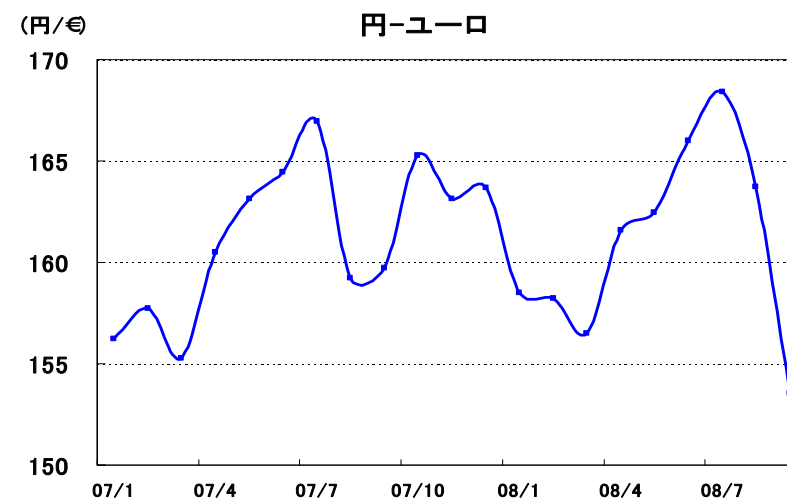
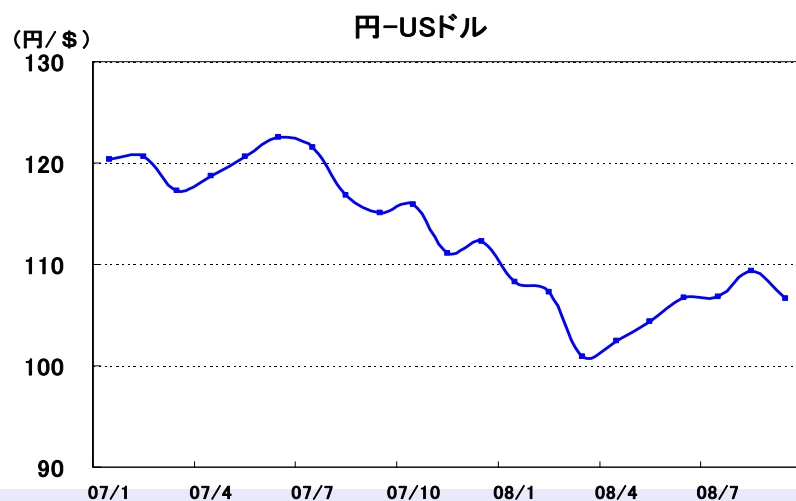
CEO 八幡 滋行

CFO 松田 三郎

# 1. 第3四半期の為替動向



	08年3Q の前提	7月 月中平均	8月 月中平均	9月 月中平均	08年3Q 平均	08年 3Q末	08年 4Q(予)
USドル	1USドル =105円	106.81	109.37	106.65	107.61	104.25	100.00
ユーロ	1ユーロ =160円	168.43	163.71	153.53	161.89	149.82	120.00



## 2. 2008年第3四半期（3ヶ月間）連結経営成績



（単位：百万円）

	2008年3Q				2007年3Q		
	実績	予想	増減額	比較	実績	増減額	比較
売上高	14,701	16,000	△1,299	91.9%	17,885	△3,184	82.2%
営業利益	819	1,100	△281	74.5%	1,439	△620	56.9%
売上高営業利益率	5.6%	6.9%	/		8.0%	/	
経常利益	867	870	△3	99.7%	1,023	△156	84.8%
四半期純利益	531	530	1	100.2%	872	△341	60.9%

### 3. 2008年第3四半期売上高分析



(単位：百万円)

2008年3Qの売上高予想	16,000
VOGTコンポーネントの車載関係の落ち込み	△500
PC・PC周辺関係の伸び悩み	△400
通信関係の落ち込み	△200
その他	△199
合計	△1,299
2008年3Qの実績	14,701

## 4. 2008年第3四半期営業利益分析



(単位：百万円)

2008年3Qの営業利益予想	1,100
売上未達による影響 (売上差異△1,299×売上総利益率22.2%)	△288
その他	7
合計	△281
2008年3Qの実績	819
【前年同期比較】	
売上未達	△200
原材料費	△250
労務費	△170
2007年3Q営業利益との差異	△620

## 5. 2008年第3四半期経常利益分析



(単位：百万円)

2008年3Qの経常利益予想

870

営業利益の差異

△281

営業外費用から特別損失への振替

190

その他

88

合計

△3

2008年3Qの実績

867

## 6. 2008年第3四半期特別利益（損失）分析



（単位：百万円）

### 2008年3Q 特別利益（損失）

固定資産売却益		1
固定資産除却損		△4
構造改革費用		△36
その他	委託加工に伴う為替関連費用 （人民元）	△331
	ルーマニア関連	△116
	その他	△16
		<hr/>
		<b>△502</b>
		<hr/> <hr/>

## 7. ビジネス(事業)別営業利益分析



(単位：百万円、%)

	08年3Q	07年3Q	増減額
コイル	1,170	1,816	△646
営業利益率 (%)	11.8	15.1	—
VOGT コンポーネント	196	239	△43
営業利益率 (%)	4.3	4.4	—
VOGT EMS	53	62	△9
営業利益率 (%)	11.3	9.0	—
消去又は全社	△609	△678	69
合計	819	1,439	△620
営業利益率 (%)	5.6	8.0	—

## 8. 製品仕向け地別売上高



(単位：百万円)

	2008年3Q	構成比 (%)	2007年3Q	構成比 (%)	増減率 (%)
日 本	2,121	14.4	2,277	12.7	△6.9
香港 / 中国	2,776	18.9	3,373	18.9	△17.7
A S E A N	922	6.3	922	5.1	0.0
台湾 / 韓国	343	2.3	1,391	7.8	△75.3
N A F T A	1,324	9.0	1,980	11.1	△33.1
E U	7,107	48.3	7,913	44.2	△10.2
そ の 他	108	0.8	29	0.2	272.4
合 計	14,701	100.0	17,885	100.0	△17.8

## 9. 連結貸借対照表



(単位：百万円)

	2007年末	2008年9月末
短期借入金	16,196	15,946
社債（アルパイン）	8,000	7,830
長期借入金+社債	3,563	3,637
借入金合計	27,759	27,413
現預金	9,181	6,772
現金等価物		3,800
ネット借入金	18,578	16,841

# 10. 2008年度設備投資・減価償却費・研究開発



(単位：百万円)

	<u>年初計画</u>		<u>修正計画</u>
<b>設備投資</b>	4,500		2,700
<b>減価償却費</b>	4,100		3,400
<b>研究開発費</b>	3,600		3,600

# 11. 2008年第4四半期連結業績予想



(単位：百万円)

	2008年 4Q予想	2007年 4Q実績	比較	
			金額	%
売上高	13,000	17,035	△4,035	76.3
営業利益	525	1,316	△791	39.9
売上高営業利益率	4.0%	7.7%		
経常利益	255	1,032	△777	24.7
四半期純利益	115	949	△834	12.1

(前提：US\$1=¥100, €1=¥120)

## 12. 2008年通期連結業績



(單位：百万円)

	1Q	2Q	3Q	4Q (予)	通期 (予)
売上高	14,835	15,479	14,701	13,000	58,000
営業利益	1,042	1,051	819	525	3,430
営業利益率	7.0%	6.9%	5.6%	4.0%	5.9%
経常利益	810	517	867	255	2,450
四半期 (当期) 純利益 (純損失)	502	△17	531	115	1,130

# 13. 2008年通期連結業績予想の修正

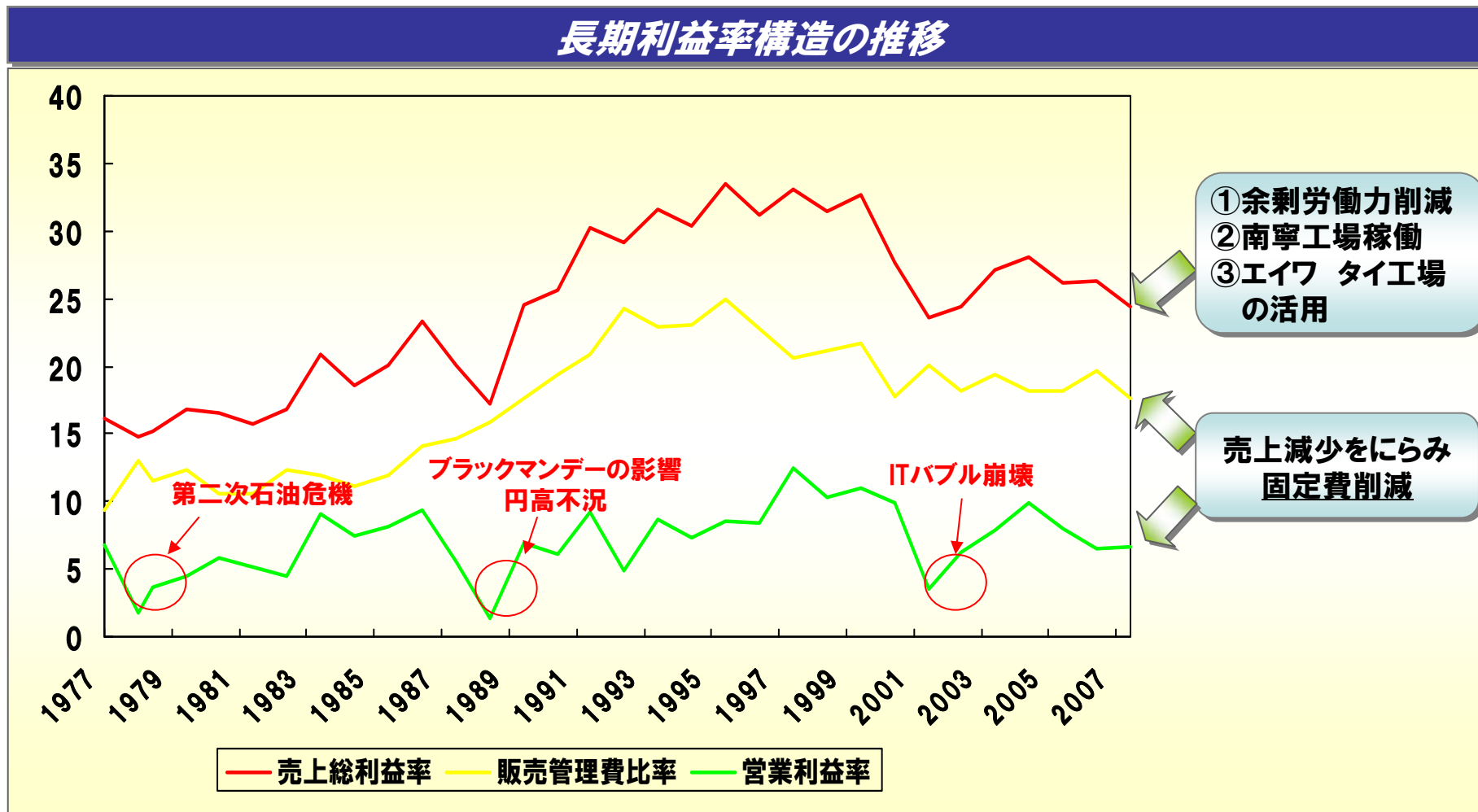


(単位：百万円)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益
前回発表予想 (2008年8月6日) (A)	62,000	4,200	3,000	2,200
今回修正予想 (2008年10月28日) (B)	58,000	3,430	2,450	1,130
増減額 (B) - (A)	△4,000	△770	△550	△1,070
増減率 (%)	△6.5	△18.3	△18.3	△48.6
(ご参考) 前期実績 (2007年12月期)	70,210	4,712	4,368	2,855

	事業環境分析と具体的な取組み内容
売上高	<p>1. <b>コンシューマーエレクトロニクス</b> 2009年にかけて当面厳しい事業環境 ①価格引き上げ交渉、②低採算製品の選別見直し（外注化含む）により対応。</p> <p>2. <b>オートモーティブ</b> 数量ベースでは堅調見込み。ABSコイル等競争力のある製品の開発・製造・販売を強化（ただし、円高が続けば円換算額は減少）</p> <p>3. <b>パワーエレクトロニクス</b> 新たな重点取組分野であり、積極的に製品拡販</p>
営業利益	<p>1. 銅価格は景気後退の影響で低下する見込み ⇒ 営業利益率で1.5%以上改善見込み（2009年度）</p> <p>2. サテライト化の計画続行</p> <p>3. SGA（販売費及び一般管理費）の圧縮 ⇒ SGAのうち管理可能費を10%削減</p> <p>4. ヨーロッパ製造部門の大幅縮小</p>
経常利益	IHB機能の強化で為替リスクを低減


# 不安定な需要動向に耐えうるコスト構造のさらなる強化



スミダコーポレーションは株式公開以来過去30年にわたり、変化の激しい環境下でも着実に営業黒字を達成  
 歴史に裏付けられた柔軟なコスト構造をさらに強化し、厳しい事業環境下においても利益を確保

# 新中期経営計画Triple Exの重点5項目の進捗状況



重点項目	内 容	
	第3四半期までの取り組み事項	第4四半期以降の取り組み予定
<b>製造</b> <u>“シルクロード構想”</u>	▶ アジアにおける低コスト量産体制の強化・拡充	
	◎南寧工場（最初のサテライト工場）の稼動開始（9月） ◎工場の残業時間の削減 <u>残業時間の推移</u> 1Q 117H 2Q 99H 3Q 80H 	◎製造人員の適正化（20%削減） ◎南寧工場本格稼動 ⇒ 製造原価低減を目指す ◎第2,3サテライト工場の調査本格化（2009年1Q,3Q設立へ） ◎エイワ社がグループ入り ⇒ タイ工場の活用
<u>顧客ニーズへの対応力の活用</u>	▶ スミダの以下の二つの顧客対応力をグローバルに提供 <ul style="list-style-type: none"> <li>・顧客ニーズ（性能 / リードタイム / 価格）への対応力</li> <li>・新しいアプリケーションに素早適合できる開発力</li> </ul>	
	◎C.Lab（中国新研究開発センター）稼動本格化（先端設備と技術者の配置）	◎日本人技術者によるC.Labへの生産技術・ノウハウの継続的な移管

# 新中期経営計画Triple Exの重点5項目の進捗状況



重点項目	内 容	
	第3四半期までの取り組み事項	第4四半期以降の取り組み予定
<b>先駆的技術と革新的な研究開発促進への投資</b>	▶ 日独における市場・お客様に密着した研究開発活動と中国新研究開発センター（C-Lab）における応用開発・事業化の推進  ◎M&A案件の詳細調査による絞込みと交渉の開始 ◎重点テーマ（追加的R&D投資30億円）の絞込みの継続実施	◎エイワ社、モステック社のグループ化（株式取得を通じた投資）によるパワーエレクトロニクス分野の強化
	▶ M&Aによる水平及び垂直統合を継続的に実行しつつ、研究開発、購買、製造、マーケティング、販売のグローバルなネットワークを更に効果的に展開し、スミダの事業基盤を強化・拡充  ◎VOGTのコイル受動部品の中国移管（VCM）を継続 ⇒ 移管品原価は大幅に削減	◎エイワ社・モステック社のグループ入り ⇒ ネットワークが拡大 ⇒ スミダの販売網の活用による売上の増加

# 新中期経営計画Triple Exの重点5項目の進捗状況



重点項目	内 容	
	第3四半期までの取り組み事項	第4四半期以降の取り組み予定
<p style="text-align: center;"><u>グローバル マネジメント体制 の発展・強化</u></p>	<p>▶ グローバルマネジメントシステムを一層整備、強化し、グループ内の多様な文化、経験から最大限のシナジーを具現。今後も更なる成長の中でM&amp;A、アライアンスを通じて取込んでいく異文化企業との統合とシナジー実現を、より効率的に素早く実施すべく経営力を強化</p>	
	<p>◎ Sumida Academyを中心にグループ全体の人材開発に関する個別施策を策定</p>	<p>◎エイワ社、モステック社のグループ入り</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ 早期の一体感の醸成</li> <li>⇒ シナジー効果の追求</li> </ul> <p>◎グローバル財務・税務戦略の高度化</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>⇒ オランダに金融持株会社設立(グループ内ファイナンスの最適化)</li> </ul> <p>◎VOGTとDomination agreementを締結し、グループ内の一体感を名実ともに実現し、SECLとのシナジーを更に追求</p>

# (株)エイワの概要



会社名	株式会社 エイワ
事業内容	高周波トランス、スイッチング電源用トランス他、 各種コイルの製造販売
事業所	本社 : 東京都大田区 国内 : 長野（開発・販売）、青森（製造：トランス 約100人） 海外 : タイ（製造：モーター用コイル、トランス 約2,200人） 中国・広東省（製造：トランス 約600人）
売上高	6,046百万円（2008年3月期） 営業利益率は約5%



製品群



タイ工場



中国工場

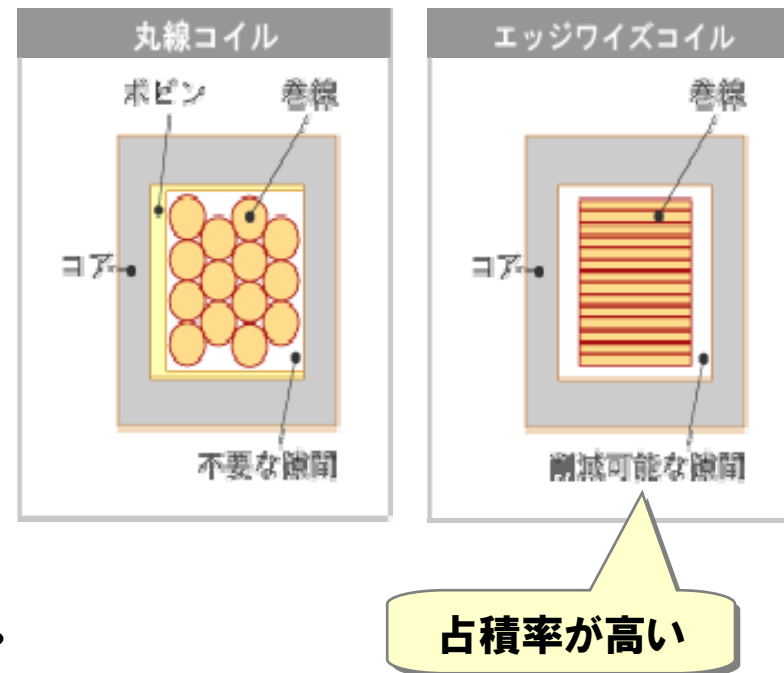
会社名	株式会社 モステック
事業内容	各種エッジワイズコイルの製造販売・研究開発受託
事業所	本社 : 京都府京田辺市 (従業員 15名)
売上高	170百万円 (2007年9月期)

## エッジワイズコイルとは？

エッジワイズコイル (edge-wise coil) とは、平角線の短辺を内径面として縦に巻いたコイルの総称。エッジワイズコイルは単層巻きが基本で、放熱性がよく形状維持も容易でボビンを必要としません。そのため占積率が向上します。  
(\*占積率とは、空間を埋めた導体断面積比のこと)

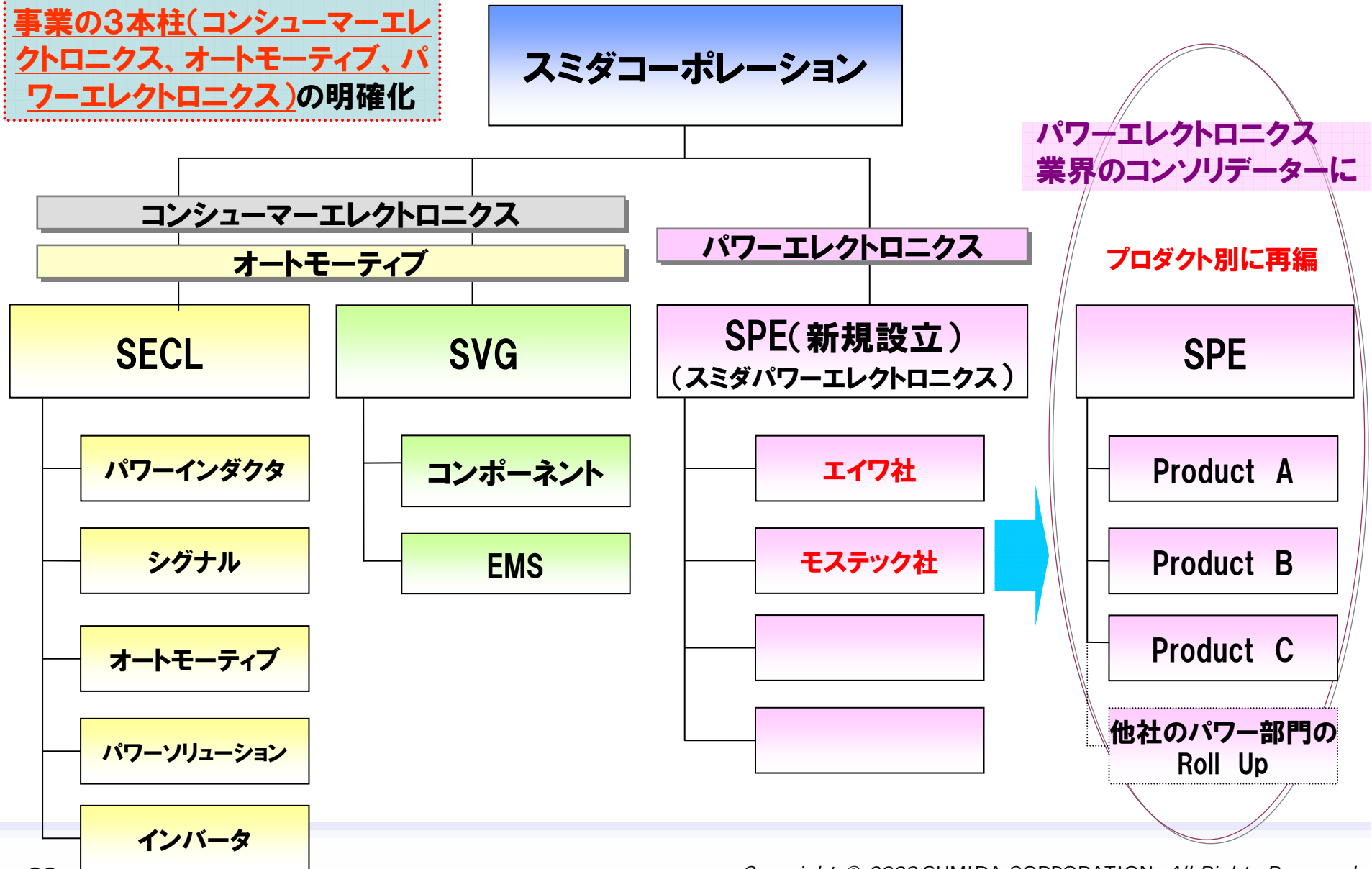
## エッジワイズコイルの利点は？

- ① 同じ大きさなら性能の向上を、同じ性能なら製品を小さく・軽くできる。
- ② 放熱性が良く、熱による性能の変化が起きにくい。
- ③ 周波数特性の向上が期待できる。



# 2009年度の事業体制

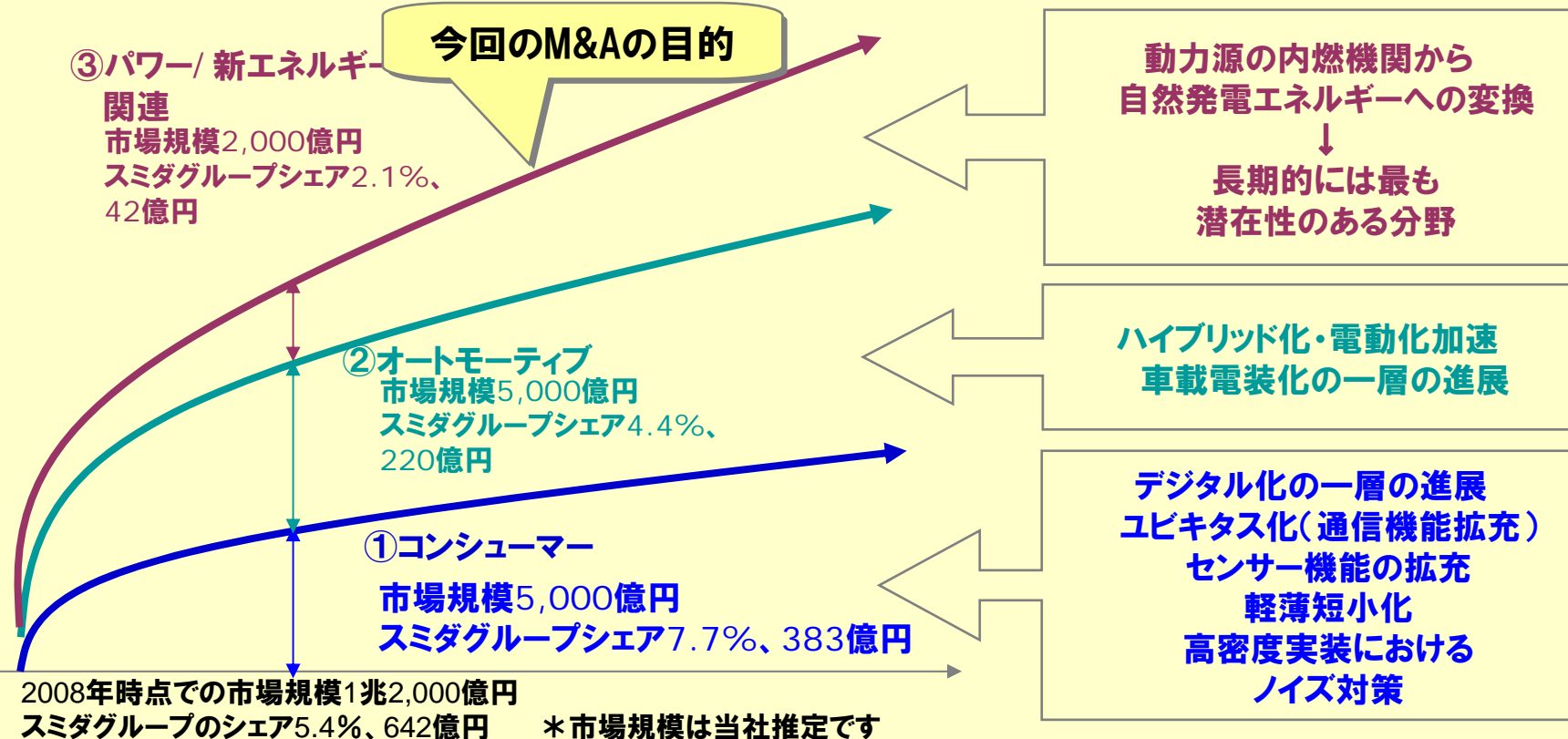
成長市場に対応する  
事業の3本柱(コンシューマーエ  
レクトロニクス、オートモーティブ、パ  
ワーエレクトロニクス)の明確化



## コイル市場の成長と当社の対応

### 電気・電子関連産業の拡大とともに成長

- ・デジタル化、ユビキタス化、センサーニーズ拡大、省エネ化等による長期的持続的成長
- ・燃料高により内燃機関から電動モーターへの動力変化が加速、成長に弾み



① **コンシューマー** SECL + SVG + ② **オートモーティブ** SECL + SVG + ③ **パワー** エレクトロニクス SPE = 売上高1000億円へ

# エイワ、モステックの株式取得のTriple Ex上の意義

## 不安定な需要動向に耐えうる コスト構造のさらなる強化

- エイワ、タイ工場の活用による製造シルクロード構想への実現加速
  - 中国における人件費上昇に備えた製造拠点分散化

## 業界淘汰の動きにおいて コイル専業でのNo1の立場を万全なものへ

- エイワ、モステックの融合により事業基盤を三つの柱を確立
  - 民生の影響を軽減へ
  - 収益基盤の安定化
  - 規模拡大による購買力強化
  - 業界内のポジションの更なる向上

## R&D・M&Aによるエネルギー・省エネ関連分野におけるコイル応用分野の拡大

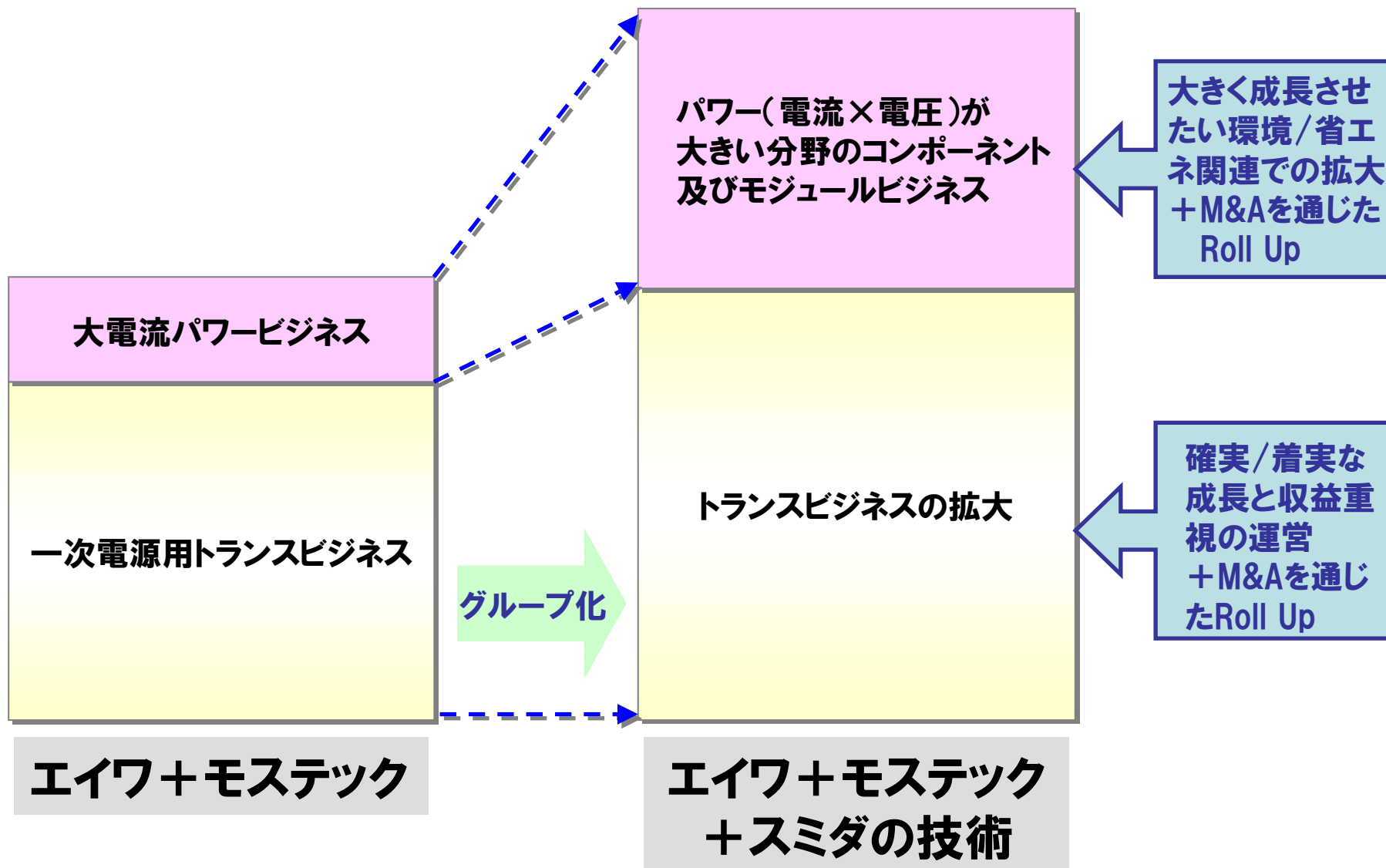
- エイワ、モステックの融合によりエネルギー・省エネ分野で競争優位性を構築するポジション確立
- 研究段階にあったスミダのエネルギー・省エネ分野の技術力を一気に実用化

## M&Aによる弊社のグローバルな事業基盤と技術力ある電子部品メーカーとの融合による価値創造

- エイワ、モステックの技術力・製造力をスミダの経営力で強化
- 業界環境が厳しいなかで、技術力のある企業に対する買収の機会を引き続き模索

スミダコーポレーションは過去30年以上、厳しい事業環境下でも着実に営業利益を確保。歴史に裏付けられた柔軟なコスト構造を更に強化し、厳しい事業環境にも耐えうる財務基盤を確立

# エイワ、モステックの株式取得の狙い



# End of the Report

## ご注意

本資料は、当社の評価を行うための参考となる情報提供のみを目的としたものです。投資等の最終決定は、ご自身の判断でなさるようお願い致します。投資の結果等に対する責任は負いかねますのでご了承ください。要約された記述、引用、データ及びその他の情報を含む当資料の内容は、情報提供を目的としたものであり、スミダコーポレーション株式会社についての投資勧誘、あるいは売買の推奨を目的とするものではありません。当資料に記載されていることは、事前の予告なしに変更もしくは存続しなくなることがあることをご承知下さい。当資料は、現時点で入手可能な情報及びリソースをかんがみた現時点の予測及び所信に基づく、将来予想に関する記述及び将来の成果の見込みを含んでいます。リスクと不確実性は、知られている場合及び知られていない場合の両方を含み、経済状況、金利の変動、競合のシナリオ及び規制、税制、会計原則の変更などに関連するところを含み、スミダコーポレーション及びグループ会社の実績、パフォーマンス、達成状況及び財務パフォーマンスについて、当資料で明示的に又は黙示的にあらわされたことと著しく異なるようなことを生じさせることがあります。当資料に関するすべてのことについて、限りなく、提供する情報について正確を期すようにしております。しかしながら、その正確性と完全性に関して、完全な保証または誓約は全く与えられておりません。スミダコーポレーションあるいはそのグループ会社は、いかなる誤り、不正確、もしくはそのことに付随して発生したいかなる損失、損害にも責任を負いません。また、当資料の日付以降、当資料に含まれる情報を公にアップデートする義務も負いません。